

第17期3回目の施設見学会が開催されました

平成26年2月4日(火)に今年度2回目となる施設見学会が実施され、25名が参加しました。

ここ数年、集中豪雨やゲリラ豪雨等で、マンホールから水が溢れだしたり、川が氾濫したりして浸水する現象が多くおきています。東京都には、これらの水を一時的に貯める施設があります。横浜市には地下型の調整池がないということなので、東京都の施設を見学しに行きました。

溢れる水を一時的に貯める施設は、都が建設した地下調節池と、国が建設した首都圏外郭放水路があります。今回見学したのは、都が建設した地下調整池のなかから「神田川・環状七号線地下調整池」(善福寺川取水施設)です。

最初に、建設の必要性、計画の概要、降雨時の対応、実績、維持に関する説明を受けました。その後、模型を使って、実際の降雨時にどのように水を貯め、またその水をどのように戻すのかと



いう仕組みを分かりやすく説明していただきました。実際のコント



ロールルームも見せていただきました。そして、最後に環状七号線の地下43mにある地下調整池に足を踏み入れ

ることとなりました。当然のことながら照明は一切なく、懐中電灯を消すと、暗闇に包まれます。この日は点検日ということで、点検車両が走っていましたが、普段の日は外の音も聞こえず、全てから遮断されたような暗闇となります。

この施設では54万立方メートルを貯水できるそうですが、平成25年9月15日の台風18号では、満杯となったそうです。現在は、1時間当たりの降雨量50mmでの対応を考えていますが、区部では75mm、多摩部では65mmの基準に変更していこうとしているそうです。

メディアなどで目にすることはありましたが、実際にその仕組みの説明を受け、地下調整池に入ってみることで、集中豪雨等への対応の必要性を強く感じました。

